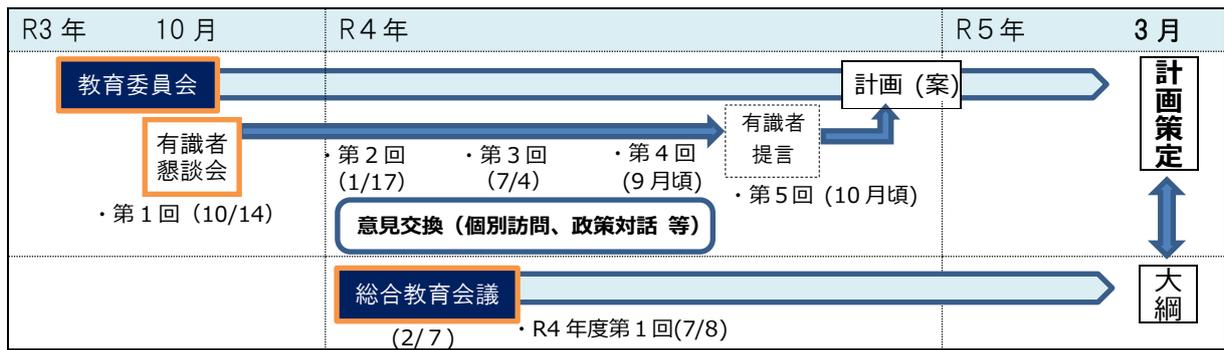


## これまでの経緯、いただいたご意見等について

## 1. 計画策定スケジュール案



## 2. 第1回・第2回「これからの長野県教育を考える有識者懇談会」概要

## 【第1回(R3.10.14)】

## 事務局説明事項

- 第3次長野県教育振興基本計画「施策」ごとの県の主な取組
- 長野県が目指す学びの改革 - 「探究」を中核にした新たな学校づくり -
  - ・ 目指す学びの姿「探究」「探究的な学び」
  - ・ 目指す学校の姿「生徒が、学ぶことそのものに喜びを感じ、学校生活に喜びを感じる」  
「生徒が、自分の学び、自分の人生、学校づくり、社会変革の当事者になる」
  - ・ 最上位の目的「個人と社会の well-being の達成」

## 《主な意見》

- ・ 子どもの多様化、教職員の多忙化等の状況下、**学校のみでの個別課題への画一的、対処療法的な対応は限界**。表面化している様々な課題の根本原因を捉えた方向性の検討が必要。
- ・ 「探究を中核とした学校づくり」「子ども目線に立った学校づくり」に賛同。
- ・ 探究の学びを進めるためには、「**教員の魅力化・働き方改革の推進**」とセットで考えてほしい。

## 【第2回(R4.1.17)】

## 講演「教育DXの先にある学校の存在意義について」(合田哲雄内閣府審議官)

- ・ **全ての分野・機能を学校が丸抱え**
- ・ **同質均質性、一律一様**の教育人材育成

〔一斉授業、同一教室…測りやすい力重視  
学校種、学年、学級、教科等…縦割り構造  
同調圧力…社会的・文化的バイアス〕

- ・ **分野・機能毎に、様々な社会・民間の力を活用**
- ・ **多様性を重視した教育人材育成**

〔認知特性を可視化し伸ばす…探究力重視  
異学年、教科横断等…個別最適・協働的学びの充実  
社会とシームレス…外部人材登用、多様な教職員集団〕

- 急激なデジタル化が進む今、子ども達の認知や特性や学び方に合わせた学びが可能に。
- **学校のデジタル化を最大限活用し、教師個人の力量への過度依存からシステム自体の構造的変革を。**  
時間・人材・財源の確保・再配分(教育内容重点化・教育課程弾力化、ギフトド特例、兼職兼業等)  
教育制度(教育課程、教員免許、教職員配置・勤務環境など)改善

## 《主な意見》

- ・ 講演のように学校を変えていくためには、「探究力」といった**子ども達に身につけてほしい力等を、学校、大学、企業・市場等様々な主体と共有**していく必要がある。
- ・ 学校の同調圧力、様々なバイアスから脱却するには、**多様な人材が学校教育に参画できる仕組みや教員配置基準を考える必要がある**。中山間地域の小規模校が多い長野県は特に慣性が強い。

### 3. 意見交換（R4年5～6月実施）の概要

- ・ 公立私立の小中高等学校や特別支援学校、フリースクール、企業など計10か所で意見交換
- ・ 6/14(火)「若者たちが考える学びの改革について」をテーマに、中高、専門学校生、大学生10名から学校や学びに対する思いをうかがい語り合う政策対話をオンラインで開催

#### 《主な意見》

##### 次期教育振興基本計画の基本理念等について

- ・ 「探究」を教育の方法論ではなく、**基本理念に位置付ける**ことはこれまでになく、**現場も「探究」の学びをさらに進めやすくなる**のでよいのではないか。
- ・ **学習者目線の基本理念が重要**。学校現場はもとより**県民がイメージを共有**できるものにしてほしい。
- ・ 「探究」を理念に据え、計画は**「探究」の学びを実現するための施策をまとめた内容に絞**ったらどうか。
- ・ 10年先、長野県の子どもはこうなってほしいという**「子どもの姿」を表現**したらどうか。（一方、同じ姿を強いることになってしまわないかという懸念も）
- ・ 社会が大きく変わっている今こそ、**一つでも大胆な取組が打ち出せたらいい**と思う。

##### 「探究」について

- ・ **学ぶ楽しさやおもしろさが興味関心につながる**というところを前面に打ち出せれば浸透しやすいのでは。「探究」は長野県が昔から大切にしてきたこと。
- ・ 「探究」の学びを進めるためには、先生も含め**学校全体で支える体制をつくる**ことが必要（個々人が研修を受けるのみでは、実践に限界がある）。
- ・ **子どもたちの興味関心や特性をもっと精緻に機械的に把握**することができないか。それが**教職員の負担軽減や、学校に居づらい子どもの要因解明**などにつながる。
- ・ 人との比較ではなく個人がどう伸びたかという観点で**「探究」をどう評価していくのか**検討が必要。

##### 教職員の働き方改革・魅力化向上について

- ・ 教職員が「探究」の学びに専念するためには、知識技術的な採点等はAI等で行うなどの**業務の仕分けや、目的ごとに様々な外部人材を活用できる環境づくり**が必要。
- ・ **外部人材等を常勤常駐化し、日常的にOJTできる体制をつくれれば**、教職員の資質向上につながる。

##### 多様な主体との連携について

- ・ 学校任せではない、**企業や大学や地域との連携の仕組みづくり**が必要。そのためには核となる人材が重要、**学校と地域・専門人材をつなぐコーディネーター、登用しやすい制度的な緩和**などが必要。
- ・ 地域側の人材を活かし続けるためには、**地域の状況に合わせ教員の異動スパンを柔軟**にしてもらうなど、**学校の教員配置の在り方も検討**してもらう必要がある。
- ・ 私立のノウハウも活用し、**先生も生徒も「探究」が身につく研修等を公私連携で検討**してみてもは。
- ・ **フリースクールと学校の連携強化**には、子どもの活動状況等の**情報共有・連結をもっと機動的にできる仕組み**が必要。

##### 子ども・若者から

- ・ **自らテーマを決め、調べ深めていく「探究」活動で**、自分たちでも学校や社会に貢献できることに気づき、**将来の進路や職業を考えるきっかけ**になった。
- ・ もっと学校活動を主体的に深め、楽しむためには、**先生や地域の方々のサポートが不可欠**。地域人材を活用することは、先生の負担軽減にもつながるのではないか。
- ・ **夢や好きなことが見つかるきっかけ**をたくさん作ってほしい。
- ・ 行き詰まった時、**先生や地域の方々が分け隔てなく相談に乗ってくれる環境**であって欲しい。
- ・ **一人ひとりの興味関心を大事にした授業や学校活動**であれば、どんな事でも楽しく突き詰められる。